

ブエノスアイレス日本人学校 (その4 子供たちと)

颯田 浩行

はじめに

故郷離れ 学びあい 亜国を友に 育ちゆき
豊かに流れるラプラタの 深き心を 育まん
ここはブエノス 我らが母校

(ブエノスアイレス日本人学校 校歌)

1997年4月、成田からシアトル、マイアミと乗り継ぎ、地球を半周してアルゼンチンにやってきました。空が青く、太陽がまぶしかったことを覚えています。私にとってブエノスアイレス日本人学校の教員時代は、同僚の先生や菅原先生、ミルタさん、ネリーさんたち現地スタッフ、保護者のみなさんや駐在の日本人の方々、そして何より元気で明るく素直な子どもたちとの、深いかわり合いのおかげで本当に楽しく充実した4年間でした。

ブエノスアイレス日本人学校の特徴

- (1) 安全な学校 (スクールバス通学が基本でしたが、家が近い生徒は徒歩通学も認められていました。また、学校に隣接して大使公邸があり、いざというときはそこに避難が可能でした。)
- (2) 都会の中の文教地区に建つ学校 (豊かな木々に囲まれ、石畳の道路に面する素敵な雰囲気のある学校でした。)
- (3) 少人数でアットホームな雰囲気のある学校 (みんなが兄弟姉妹のように関わり合っていました。中学部の子どもたちは小学部低学年の子どもたちと手をつないだりおんぶしたり遊んだり、とても温かな雰囲気でした。)
- (4) 世界で唯一給食がある学校 (のちにPTAと改称する当時の父母の会の努力によって、中華のチャイナタウン、和食のビストロトーキョーの週2回の給食が提供されていました。)

では、当時の日本人学校の行事を振り返りながら学校生活を紹介していきたいと思います。

1 歓迎遠足 (4月)

4月、バスをチャーターして郊外の観光農園 (エスタンシア) に出かけました。到着すると、児童・生徒会によるゲーム大会や各学年による自己紹介タイムが催されました。その後、アサードを食べながら、フォルクローレのダンスショーを観ます。食事のあとは、干し草を椅子にした馬車に乗せてもらって散策をしたり、牛やウサギと触れ合ったりしました。

ただ、道が渋滞したり、バスの運転手が道を間違えたりして、予定時間通りに着かないこともあり、生徒会の子どもたちが準備したゲームがちょっとしかできなくなって「ごめんね」みたいなこともありました。

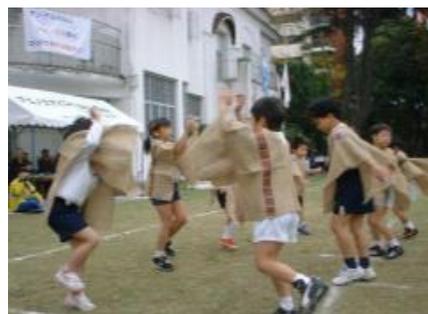
アサード昼食とアルゼンチンサンバ観賞



アサード昼食とアルゼンチンサンバ観賞

2 運動会（5月）

日本人学校の運動会は、あまり広くはない学校の運動場で行われます。一周約100メートルのトラックはカーブがきつく、大人が全力で走ると、遠心力で必ず転んでしまうところでした。日本の運動会では、頭上に万国旗が掲げられることが多いですが、日本人学校はこいのぼりが並びます。通りがかりのアルヘンティナーが「あれはどこで買えるのか」と聞いてきて、説明に困りました。



低学年のカルナバリートの踊り

プログラムはほぼ日本の運動会と同じでしたが、表現運動（ダンス）ではアルゼンチンの民族舞踊を披露します。ハンカチを使ったフォルクローレダンス「ペリコン」や「ポンチョ」を着て「カルナバリート」を踊ります。華やかで絵になる瞬間でした。

人数が少ないので、プログラムは午前中で終了。運動場を保護者のみなさんと一緒に片付けると、職員・子どもたち・保護者みんなで仲良くアサードとなります。



高学年によるペリコンの入場

3 学習発表会（10月）

日本人学校の学習発表会は準備に時間と手間をかけた一大イベントでした。各学年、劇などの表現発表・生活科や総合的な学習の発表、全校児童生徒による音楽発表、そして、作品の展示発表が催されました。その発表は、アルゼンチンから学んだことの紹介であったり、アルゼンチンの民話をモチーフにした劇だったり、花祭り（エルウマワケーニョ）の合奏だったりと日本人学校ならではのものでした。



アルゼンチン民話劇「きつねとトラ」



全校合唱奏



アルゼンチンの食べ物調べ発表



アルゼンチンの今と昔調べ発表



作品展示

4 キャンプ (11月)

1999年までは、小1年から中3まで一緒に2泊3日の野外学習（キャンプ）を行っていました。天候の関係で中止にせざるを得ない年もありましたが、テントを設営し、全校児童生徒で協力しあって実施する宿泊行事は思い出深いものでした。ただ、この行事は低学年児童にとっては過酷だったため（3日間年下の子たちの面倒をみる中学部生徒にとっても同じく過酷でした）2000年度は3年生までは学校の運動場にテントを張って宿泊することにしました。

3年生の子たちがお兄さん、お姉さんになり、いっなくなると頼もしい感じだったことを覚えています。

夜は、保護者の皆さんに協力していただき、校内をお化け屋敷にしたきもだめしを行いました。旧校舎玄関のらせん階段がとってもいい雰囲気を出してくれました。



低学年キャンプ、運動場に張ったテントの前で

5 プール (12月～)

当時の日本人学校のプールは、片側は深さ80cmくらいの低学年モードですが、中央までいくと急に深くなり2mくらいになってびっくりします。また、プールの水は井戸水なので、いつもとても冷たく、低学年の子どもたちは、すぐに体が冷えてプールサイドで休憩することになります。でも、子どもたちは楽しく一生懸命に泳ぐ練習を重ね、水泳記録会に挑みます。



水泳記録会、スタート前の緊張の一瞬

6 特色ある授業

(1) イングリッシュ校との交流

日本人学校とラパンパ通りを挟んで反対側にイングリッシュハイスクールがありました。相手校の理解と、日本人学校の歴代の先生方の努力もあり、二校双方に行き来をする交流活動（インテルカンビオ）が年間を通じて行われていました。

日本人学校の子どもたちが相手校に招かれると、アルゼンチンの子どもたちの遊びを教えてもらったり、一緒にサッカーの試合をしたりしました。また、アルファフォーレと一緒に作ったこともありました。そして、相手校の子たちを招いたときは、子どもたちと先生で工夫を凝らした「おもてなし」で交流活動をしました。カレーや団子、インスタントラーメンを紹介する食べ物交流や、浴衣やはっぴなどを試着してもらう活動、日本語で名前を書いてもらったり、絵かき歌や折り紙、フルーツバスケットなどで一緒に遊んだりもしました。

写真上：イングリッシュ校での交流 アルファフォーレ作り

写真下：日本人学校での交流 新聞紙でカブトを折ろう



年間を通じて何度も顔を合せているうちに、心が通じ合って友だちになれる子も出てきたりして素敵な国際交流の場でした。

(2) 生活科「アイスクリーム屋で見つけたよ」

当時の2年生はアルゼンチンにたくさんあるアイスクリーム屋を題材に生活科の授業をしました。学校の近くにあるアイスクリーム屋さんに行き、いろんな種類のアイスクリームがあることを知り、それがどんな味なのか、スペイン語のメニューを持ち帰り調べました。また、メニューに電話番号がついていることから、アイスクリームの出前（エンピオ）ができることを見つけて、実際に電話で出前でアイスクリームを注文してみました。そして、お店の人をお願いしてアイスクリーム工場の見学までさせてもらえることになりました。現地のアイスクリーム屋さんの親切と優しさがなければできなかった実践でした。

写真上：アイスクリームのエンピオに成功した子どもたち

写真下：アイスクリーム工場見学を終えて、出来たてアイスの試食



7 小ネタ

日本人学校では、ウーパールーパーを飼っていました。ピンク色で愛嬌のある顔、手足をぴくぴく動かす様子がかわいく、みんなの人気者でした。ただ、エサが生きたミミズだったので、子どもたちは畑を掘り起こしたり、側溝の泥を掘り返したり結構大変でした。

また、校庭に2匹のカメが住み着いていて、ダイアナとカメ太郎と名づけられていました。子どもたちが追いかけたりちょっかいをかけたりするので、カメなのに逃げ足がとても速かったです。

おわりに

25年も前のことですが、ついこの間のように思い出されるブエノスアイレス日本人学校での子どもたちとの毎日。私にとってその後の人生に大きく影響したこの4年間のことをもう一度思い出すきっかけをくださった日本アルゼンチン協会に心から感謝します。ありがとうございました。

(さったひろゆき：1997.4～2001.3 在任)